

お客様の喜びを最大化するモノづくりへ 「量」から「質」へ転換図る

本田技研工業 株式会社 熊本製作所



今秋、世界累計生産台数が1億台を突破する見込みのスーパーカブ

世界最大の二輪メーカーHondaの国内唯一の二輪車製造拠点であり、海外生産工場のマザー機能を併せ持つ本田技研工業(株)熊本製作所。近年、中・大型二輪車の研究・開発機能を熊本地区に集約し、開発から量産までを担う一貫体制が整っている。昨年の熊本地震を乗り越え、生産効率がアップした形で復旧した同製作所。今年4月には下川一郎所長が就任し、さらなる飛躍に向けた挑戦をスタートさせている。



今年4月に発売した「X-ADV」



新型クルーザーモデル「レブル500」



受注が好調な「CBR250RR」

中・大型二輪車の開発・生産拠点

1976(昭和51)年に操業を開始した本田技研工業熊本製作所(大津町平川、下川一郎所長)。二輪車、汎用製品などの量産を担っており、エンジンや各 부품の生産加工、完成車組立までを一貫して行っている。

Honda国内唯一の二輪車生産拠点で、中・大型二輪車の研究・開発機能も熊本地区に集約。15年にはテスト棟と新機種開発棟が完成し、評価体制・開発・テスト等の一連の業務をコンパクトかつスピーディに行うことが出来る体制が整った。また、15年から国内向け50cc原付スクーターの生産を開始。通勤用から大型の趣味商品まで、生産方法が異なるさまざまな二輪車を生産する役割を担っている。

新型モデルを続々発売 スーパーカブは1億台突破へ

開発から量産までの一貫体制が整い、スピーディな製品開発が可能になった同製作所。その成果は確実に表れている。今年4月に発売した新型アドベンチャーモデル「X-ADV」は、低回転域から高回転域まで扱いやすい4ストローク直列2気筒745ccエンジンを搭載。DモードとSモードで低いギヤを選択する領域を拡大したデュアル・クラッチ・トランスミッション

を組み合わせることで、力強さと利便性を高次元で融合させた。

同じく4月に発売した新型クルーザーモデル「レブル500」は、特徴的な形状の燃料タンクやくびれのあるナロースタイルのフレームボディ、ブラックに仕上げたエンジンや各部パーツの採用などにより、タフでクールなイメージを表現。自由な発想でのカスタマイズを想起させるスタイリングとなっている。

5月に発売した「CBR250RR」は、スタイリングデザイン、車体、パワーユニットのすべてを新設計。スロットルグリップの開度を電気信号を介して伝達する「スロットル・バイ・ワイヤシステム」を250ccクラスで初めて採用した。受付開始3日間で年間販売計画台数3500台を上回る3714台を受注。新世代の軽二輪スポーツモデルとして男性を中心に高い支持を得ている。

一方、来年誕生60年を迎えるスーパーカブは今秋、世界累計生産台数が1億台を突破する見込み。1シリーズの生産台数として世界最多の記録で、熊本製作所でも記念イベントが開催される予定だ。

下川所長が就任

4月1日、新所長に下川一郎・二輪事業本部生産企画部長が就任した。30年以上にわたり二輪事業に携わ

ってきた下川所長は、「お客様の喜びを最大化できるモノづくりへと進化させる。そのために部門の垣根を越えて『お客様第一』の議論を行い、『量』から『質』へ大きく舵を切る」と方針を示している。また、高校球児だった下川所長も応援に力を入れるHonda熊本硬式野球部は昨年、地震を乗り越えて九州地区予選を勝ち抜き、都市対抗野球大会に出場。今年も2年連続で同大会への出場を果たすなど、地域に元気を発信している。



下川一郎 所長

DATA

所在地	〒869-1293 菊池郡大津町平川1500
T E L	096-293-1111
F A X	096-293-8280
操業開始	1976(昭和51)年1月
従業員	約3,100人 ※熊本製作所に同設する本社及びR&D等組織を含む
事業内容	二輪車・汎用エンジン・汎用品製造
U R L	http://www.honda.co.jp/kumamoto/